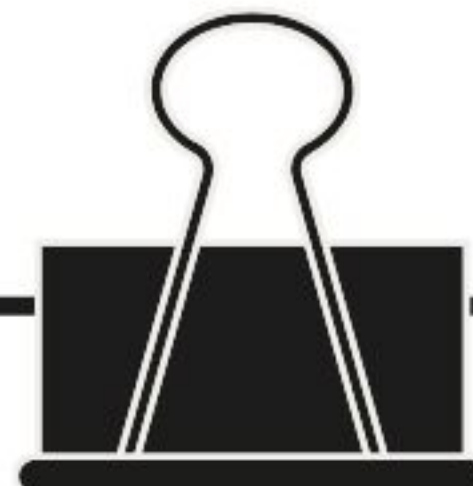




アウトリーチ事業が始まる

「音楽と音楽家の出前」によるアウトリーチ事業が2年ぶりの開催となります。昨年は諸事情により実施できませんでした。各方面からの強い要望もあり、新たな気持ちで実施する運びとなりました。事業の募集を行ったところ41施設から要望があり、検討した結果、今年度は次の22施設へ訪問いたします。

- ・小学校…3か所
- ・中学校…1か所
- ・教育支援施設(合同開催)…1か所
- ・幼稚園…7か所
- ・保育園…7か所
- ・こども園…3か所



また、演奏者は出雲フィルハーモニー・チェンバーオーケストラのメンバーから、次の3編成を組み、それぞれの施設の要望に応じて音楽と音楽家の出前を行います。

Aグループ…木管楽器(クラリネット・ファゴット)

金管楽器(トランペット・トロンボーン)、弦楽器(コントラバス)による五重奏

Bグループ…ヴァイオリン×2、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏

Cグループ…ソプラノ×2、テノール、ピアノによる声楽アンサンブル

この事業を通して、音楽そのものに興味を持っていただけるよう働きかけたり、出雲芸術アカデミー及び出雲フィルハーモニーへの理解と関心が深まるよう努力しています。いろいろな音楽を純粋に楽しんでいただければ幸いです。

マイキー(高畑壮平氏)が出雲入り！

今年3月のファミリーコンサートを最後に渡独されていましたが、3ヶ月半ぶりに帰国され、7月17日から9月末まで次の3クールに分けて出雲入りされます。

第1クール…7/17(金)～7/27(月)

第2クール…8/21(金)～8/31(月)

第3クール…9/11(金)～9/28(月)or29(火)



マイキーは、コンサートマスターとして指揮者と共にオーケストラの音楽表現を限界まで引き上げていくという大きな役割があります。また、日頃から子どもたちの育成について熱心で、基礎・基本を大切にされた指導を子ども目線で関わる独特なスタイルを本アカデミーに根付かせていただいています。

一方で、指導者の皆さんとのかかわりでは、様々なアンサンブル編成に積極的に声がけをされています。アンサンブルを通して技術面や表現法などを普段の指導にも生かせる取り組みを、ここ出雲で体現できている幸せを感じずにはられません。マイキーの意欲はここで終わりではありません…。



驚くことに、本アカデミーの取り組みや出雲フィルハーモニーの存在を出雲市民の皆様にもっと知っていただくにはどうすれば良いかなどを真剣に考えていらっしゃいます。

その結果、マイキーはヴァイオリン一人で出向けるよう考えられ、カラオケスタイルの録音媒体を準備され、ラジカセを抱え、どこにでも出かけて演奏をするというアイデア満載の活動を実行されるに至っています。ここまで本アカデミーのことを考えてくださっていることに感謝、感謝です。

この度のマイキーが出雲入りされる大きな目的は、9月に開催する定期演奏会への出演ですが、出雲滞在時には是非、本アカデミーの受講生並びに出雲フィルハーモニーの皆さん、関係者の方々は積極的に声をかけていただき、マイキーから何かを吸収して欲しいと願っています。その為のきっかけづくりとして、研究講座や特別セミナーの案内をいたしますので、積極的に出かけていただきたいと思います。

AIと人間は共存できるか…？

最近 AI(人工知能)の話題が尽きません…。本アカデミーでも、今年度の組織再編にあたって AI の力を借りました。その時に感じたのは、AI の情報量の多さに驚きを隠せませんでした。

しかも、何事も私たちに寄り添って答えてくれていることに感嘆！

そのような AI はどのように学習しているのか疑問に思っていたところ、紹介している記事を見つけました。話題の生成 AI は、古代ギリシア哲学を取り込んでいるとのこと。

最新版は、徳を持つ人が善をなすと考える「徳倫理学」を学習し、その最大の古典がアリストテレスの「ニコマス倫理学」とのこと…。

哲学と言えば、大学時代に講義を受けて以来深くかかわったことがなく、考え方の基準において完璧に追い越されているようです(お恥ずかしー)。その「ニコマス倫理学」の説く善と徳は、数ある「善」の中で最上位に位置付けられる「最高善」の実現を幸福そのものと見なしています。その内実を四つの重要な徳と説明しています。

思慮深さ(的確に判断する)

勇気(困難に立ち向かう)

節制(欲望をコントロールする)

正義(他者や共同体を尊重する)

その他の徳(気前良さ、志の高さ、温和さなど)



また、アリストテレスが考えた徳や善、幸福と技術の間には密接な関係があり、善をなすには職人や音楽家が技術を習得するように徳のある行いを繰り返し、習慣化する必要を説明しています。このように最新の AI は、ある種の人間味を必要として学習を積み重ねていることが読み取れます。

ところで、出雲芸術アカデミーも古代ギリシア時代に活躍した哲学者プラトンの思想を基本理念として創設されています。プラトンは、学問・芸術に関する指導的役割を担う団体として「アカデメイア」の名称で普及・活動したことを本アカデミーはその理念を継承し、「真・善・美の追求」と「心・技・体の調和」を根底においた活動を行っており、AI が学習していることと通じていることに気が付きます。

人間と AI が共に哲学の理念をもっと学習すれば、案外共存していけるのではと思うことは時期尚早でしょうか…？



つぶやきコーナー

このコーナーはアカデミー関係者が普段から考えていることや思いをつぶやいていただきます。

つぶやきコーナーに寄稿させていただきます、オーボエの安田美和子です。桑原学長より、内容は人それぞれ違って良い…とのことでしたので、今回はよく質問されることであり、私の宝物の体験をダラダラと書きます。1人のオーボエ奏者のつぶやきだと思い、読み流していただけると幸いです。

私がよく質問されることは、

- | | |
|---------------|---------------|
| ①なぜドイツに留学したの？ | ④ドイツでの生活は？ |
| ②なぜハンブルクなの？ | ⑤ドイツの音大は？ |
| ③なぜ日本に帰国したの？ | ⑥ドイツのオーケストラは？ |

大まかにはこのようなものです。

この中から今回は①②③について、私の経験をつぶやいてみます。



ドイツ、ハンブルクへの留学

私がドイツに留学したいと思ったきっかけは、日本の音大でのオーボエの先生(師匠)との出会いでした。先生は私が大学に入学する1年ほど前にドイツから帰国されたばかりで、ドイツでの生活、音大、オーケストラ…色々な沢山のお話をしてくださいました。

そして先生の音楽やオーボエの音色はなんとも言葉にできないくらい素晴らしく、私もドイツで学びたいという気持ちになりました。

私が留学先に選んだ街はドイツでも北部に位置するハンブルクです。ブラームスやメンデルスゾーンが生まれ育った街であり、歌劇場ではマーラーが第一楽長として指揮をしていたことで有名なのですが、日本人留学生からすると、マイナーな留学先。

ですが、日本の先生の留学先もハンブルクだったことや、大学の先生から住みやすい街ということをして沢山聞かせていただいていたので、私もハンブルクに決めました。



私がハンブルクの音楽大学での師匠は、ソロ イングリッシュホルン奏者としてハンブルクの歌劇場で演奏されている方でした。師匠の音色はドイツ国内でも珍しい音色であり、音楽的にも素晴らしい奏者でした。

皆さんには耳馴染みのないポジションではないかと思う「ソロ イングリッシュホルン」ですが、ドイツのオーケストラでは当たり前で存在するポジションなのです。

ソロ イングリッシュホルンの人はオーボエは吹かないの？と聞かれることがありますが、もちろんオーボエも吹きます。皆さんの認識はオーボエ奏者が持ち替え楽器としてイングリッシュホルンを演奏する…だと思いますが、その逆バージョンだと想像していただくといいかと思います。

日本への帰国

そしてハンブルクで学び、ドイツでお仕事をしていましたが、その後日本に帰国します。なぜ日本に戻ったのか…はよく聞かれる質問ですが、私の場合、帰国するタイミングが自然に訪れたただけでした。





留学すると決めた時に具体的な期間は設けず、ずっとドイツにいるという決意もなく、とりあえず学びに行こうという気持ちで渡独し、節目は何度かあった気がしますが、その度に何かドイツに残る理由ができ、帰国するタイミングがなく何年も過ぎていきました。

きっかけは2つ。ハンブルクでの同門で、すでに日本のプロオーケストラの団員として働いていた先輩から夏休みに毎年誘っていただき、一緒に演奏させていただいていました。何年か続いた時、先輩の方から、「日本に帰国する意思はないの？帰ってくるなら今だよ、仕事もある。」と声をかけていただいたことと、同時期に日本のオーケストラのオーディションを受けた後に団員の方から、「日本にいるならエキストラをお願いしたい。」と声をかけていただき、初めて帰国を考えるようになりました。

ただドイツでのお仕事も順調だったので、しばらく悩みましたが、いずれ老後は日本で過ごしたいと思っていたことと、日本のオーケストラで自分の実力が通用するのか興味があったことから、とりあえず1年間、日本で生活してみることにしました。がしかし1年後、大変ありがたいことにスケジュール帳が埋まってしまい、逆にドイツに帰るタイミングを失ってしまい結局、日本に帰国するタイミングだったのだろうという結論に至りました。

これはあくまでも私の体験ではありますが、ドイツでの生活は今でも私の宝物ですし、あの時間がなければ今の私はいないと思います。

生徒の皆さんにも宝物になる経験をこれからたくさんしてほしいと願っています。最後までお付き合いいただきありがとうございました。



出雲讃歌 指揮者 稽古

